

2022 年 8 月 14 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒503 番 (MK 姉)

『天つ真清水』

聖書⇒エフェソの信徒への手紙 2:11~13 節 (MM 姉)

『だから、心に留めておきなさい。あなたがたは以前には肉によれば異邦人であり、いわゆる手による割礼を身に受けている人々からは、割礼のない者と呼ばれていました。また、そのころは、キリストとかかわりなく、イスラエルの民に属さず、約束を含む契約と関係なく、この世の中で希望を持たず、神を知らずに生きていました。しかしあなたがたは、以前は遠く離れていたが、今や、キリスト・イエスにおいて、キリストの血によって近い者となったのです。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 9:15 節

『そこで、ファリサイ派の人々も、どうして見えるようになったのかと尋ねた。彼は言った。「あの方が、わたしの目にこねた土を塗りました。そして、わたしが洗うと、見えるようになったのです。』

礼拝讃美歌⇒479 番

『神なく望みなく』

聖書⇒士師記 2:7 節 (SK 兄)

『ヨシュアの在世中はもとより、ヨシュアの死後も生き永らえて、主がイスラエルに行われた大いなる御業をことごとく見た長老たちの存命中、民は主に仕えた。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 6:40 節

『わたしの父の御心は、子を見て信じる者が皆永遠の命を得ることであり、わたしがその人を終わりの日に復活させることだからである。』

(祈)

礼拝讃美歌⇒476 番 (旧 266 番)

『いかなる恵みぞ』

《パン裂き》

聖書⇒ルカによる福音書 22:19~20 節 (KH 兄)

『それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」 食事を終え

てから、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。』

(式)

礼拝讃美歌⇒148 番 (旧 94 番曲)

『主の御旨により』

《建徳》

聖書⇒コヘレトの言葉 3:1~8 節 (HT 姉)

『何事にも時があり／天の下の出来事にはすべて定められた時がある。

生まれる時、死ぬ時／植える時、植えたものを抜く時

殺す時、癒す時／破壊する時、建てる時

泣く時、笑う時／嘆く時、踊る時

石を放つ時、石を集める時／抱擁の時、抱擁を遠ざける時

求める時、失う時／保つ時、放つ時

裂く時、縫う時／黙する時、語る時

愛する時、憎む時／戦いの時、平和の時。』

聖書⇒詩編 74:16~17 節 (KH 兄)

『あなたは、太陽と光を放つ物を備えられました。

昼はあなたのもの、そして夜もあなたのものです。

あなたは、地の境をことごとく定められました。

夏と冬を造られたのもあなたです。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 8:18~23 節

『現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りないと思います。被造物は、神の子たちの現れるのを切に待ち望んでいます。被造物は虚無に服していますが、それは、自分の意志によるものではなく、服従させた方の意志によるものであり、同時に希望も持っています。つまり、被造物も、いつか滅びへの隷属から解放されて、神の子供たちの栄光に輝く自由にあずかれるからです。被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っています。被造物だけでなく、“霊”の初穂をいただいているわたしたちも、神の子とされること、つまり、体の贖われることを、心の中でうめきながら待ち望んでいます。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 8:18 節 (ES 姉)

『現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りないと思います。』

聖書⇒イザヤ書 25:1、4~5、8 節

『主よ、あなたはわたしの神／わたしはあなたをあがめ／御名に感謝をささげます。

あなたは驚くべき計画を成就された／遠い昔からの揺るぎない真実をもって。

まことに、あなたは弱い者の砦／苦難に遭う貧しい者の砦／

豪雨を逃れる避け所／暑さを避ける陰となられる。

暴虐な者の勢いは壁をたたき豪雨／乾ききった地の暑さのようだ。

あなたは雲の陰が暑さを和らげるように／異邦人の騒ぎを鎮め／暴虐な者たちの歌声を低くされる。

死を永久に滅ぼしてくださる。

主なる神は、すべての顔から涙をぬぐい／御自分の民の恥を／地上からぬぐい去ってくださる。

これは主が語られたことである。』

聖書⇒イザヤ書 11:1、4~10 節

『エッサイの株からひとつの芽が萌えいで／その根からひとつの若枝が育ち

弱い人のために正当な裁きを行い／この地の貧しい人を公平に弁護する。

その口の鞭をもって地を打ち／唇の勢いをもって逆らう者を死に至らせる。

正義をその腰の帯とし／真実をその身に帯びる。

狼は小羊と共に宿り／豹は子山羊と共に伏す。子牛は若獅子と共に育ち／小さい子供がそれらを導く。

牛も熊も共に草をはみ／その子らは共に伏し／獅子も牛もひとしく干し草を食らう。

乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ／幼子は蝮の巣に手を入れる。

わたしの聖なる山においては／何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。

水が海を覆っているように／大地は主を知る知識で満たされる。

その日が来れば／エッサイの根は／すべての民の旗印として立てられ／国々はそれを求めて集う。

そのとどまるところは栄光に輝く。』

礼拝讃美歌⇒116 番 (旧 40 番) (KH 兄)

『カルバリの丘』

《建徳要旨》

